

朋友

名稱

朋友ハ、トモト云ヒ、又トモガキ、トモドチ、知音、得意等トモ稱ス、友ニハ心友アリ、面友アリ、又善惡親疎等ニヨリテ、各其稱ヲ異ニセリ、而シテ友ニ交ルニ信義ヲ以テス、之ヲ朋友ノ道ト云フ、其名ハ既ニ日本書紀神代卷ニ見エタリ、

〔天文倭名類聚抄人倫〕朋友 論語注云、同門曰朋、反、尚書注云、同志曰友、和名止毛太知、重、文場秀句云、知音得意、朋友篇事對

〔箋注倭名類聚抄男女〕止毛太知、又見古今集後撰集離別歌小序、仁賢紀同伴者同訓、雄略紀朋友訓止毛、神代紀訓止毛、加幾、按止毛、共事之義、伴字、部字、訓止毛、同意、輩訓止毛、賀良亦同、太知訓等字、不一人之義、中、知音、見今昔物語得意、見源氏物語明石卷、及今昔物語得意、知音、見今昔物語卷三、阿闍世王殺父語條、

〔類聚名義抄二〕朋 トモ、カラ、〔同九〕友友 音右、トモ、タチ

〔伊呂波字類抄止人倫〕朋友 トモ、タチ、友 トモ、伴 侶 已上同

〔運步色葉集登〕友達 友 朋

〔書言字考節用集四〕朋友 頌友、良友、並同、公羊傳同、門曰、朋、書言大全、道同、爲朋、志孚、友、同、出禮記、也、共人 朋友 朋、曹、宋、高、執

〔日本書紀雄略〕七年、是歲、吉備上道臣田狹侍於殿側、盛稱稚媛於朋友曰、略、下

〔日本書紀仁賢〕六年、是秋、鹿父曰、諾、即知所言矣、有同伴者、不悟其意、略、下

〔伊勢物語下〕むかしを、とこ、友だちの人を、うしなへるがもとに、やりける、

〔八雲御抄三下〕友 ともかきと 思、どちなどいふ也